

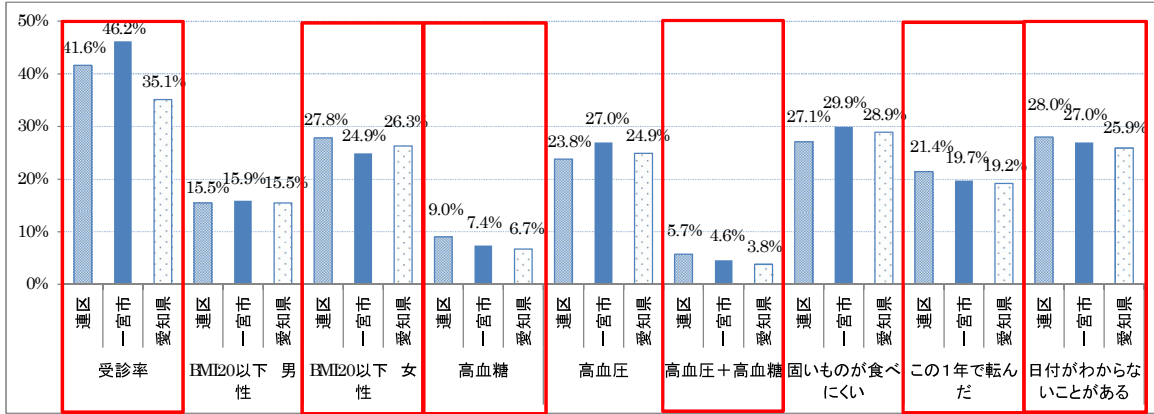
# ● 千秋町連区の情報 ●

## ⑦ 連区の人口構成 R6.4.1

総人口： 17,001 人（男性 8,312人、女性 8,689人）  
 世帯数： 7,021  
 高齢化率： 29.2 %（市内高齢化率が高い順で23連区中9番目）

## ⑧ 一宮市後期高齢者医療制度 健康診査（令和5年度）

被保険者人数 市 61,344 人 連区 3,104 人



「BMI 20以下」、「固いものが食べにくい」、「この1年で転んだ」、「日にちがわからないことがある」の4点はフレイル（虚弱）に関する質問項目になります。 ...改善したいもの 資料：KDBシステム

## ⑨ 地域活動（地域包括支援センター「ちあき」や社会福祉協議会の活動より）

### 【ありがとうさんの会】

馬場公民館 第2・4(水)15:00～  
 千秋出張所 第2(日)10:00～



### 【新しいづみ】

「歌とおしゃべりとちょっと運動の会」  
 第3(土)10:00～



### 【見守りネットワーク推進委員会】

民生児童委員、町会長、老人クラブが集まり、地域の見守りが必要な高齢者について情報共有をします。



### 【浮野うきうきサロン】

浮野公民館 第2(日)10:00～



### 【芝原いきいきサロン】

芝原公民館 第2(水)13:30～



### 【地域ケア会議兼民生児童委員・ケアマネジャー研修&交流会】

地域で暮らす高齢者の生活を支える者同士、お互いの仕事について、集まりの場等について活発な意見交換をします。



## ⑩ データから見る地域の特徴と健康の課題

### 《市全体のこと》

- 平均的に要介護2以上の期間は、男性で1.6年、女性で3.1年。この期間を短くすると、自分のことが自分でできる期間が長くなる。今後の、健康増進、介護予防の取り組みでこの年数を減らすことが望まれる。

### 《連区のこと》

- 健診受診率は市と比べると低い。後期高齢者の健診は、フレイル健診とも言われ、知らない間に進むカラダの変化のチェックができる。生活の中の工夫で、病気や介護を遠ざけることもできるから、1年に1回利用しよう。
- 健診結果から「高血糖」や「高血圧+高血糖」の人の割合が多い。自覚症状がないから、病院で診てもらわなければならない。BMI 20以下の「低栄養」の割合は、女性が市より多い。知らない間に痩せていることもあるので、要注意！
- 質問票の結果から「この1年で転んだ」人の割合や、「日付がわからないことがある」人の割合が多い。フレイル予防の知識の普及と予防の取り組みを進める必要がある。

かかりつけ医を持ち、病気だけでなく、カラダの変化も相談しよう。これから何がしたい？ 今後の人生に楽しい時間が増えるかもしれません♪



### ◆ 地域活動について

低栄養の人や転んだことのある人、認知症予防を勧めたい人が多く、フレイルに注意したい人が多そうだが、市民が主体的に交流の場を設けていることが、フレイル予防により活動となっている。

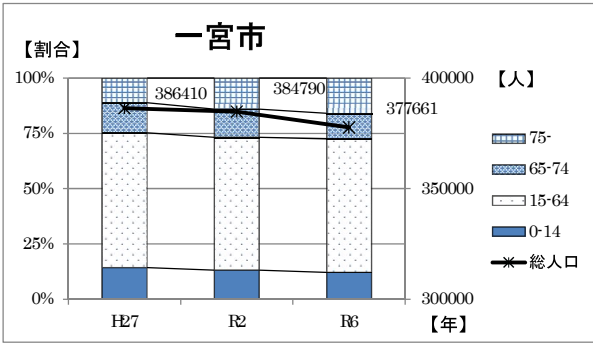


フレイル予防は、運動、食事、人との交流がキーポイント。連区の活動は、フレイル予防に繋がっているね！

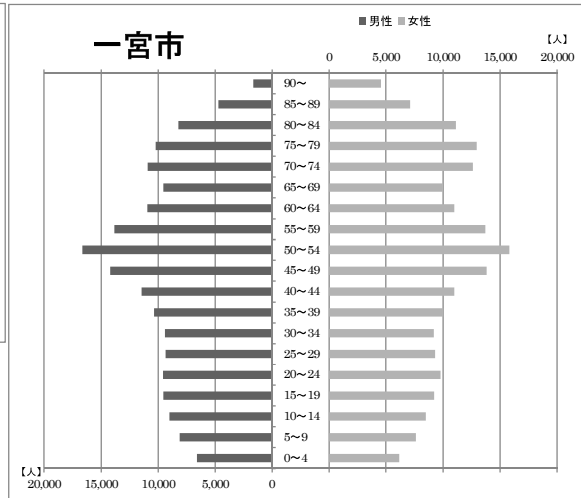
# 一宮市の情報

## 一宮市の情報

### ①人口推移(各年4月1日)



### ②男女別年齢階級別人口(令和6年4月1日)

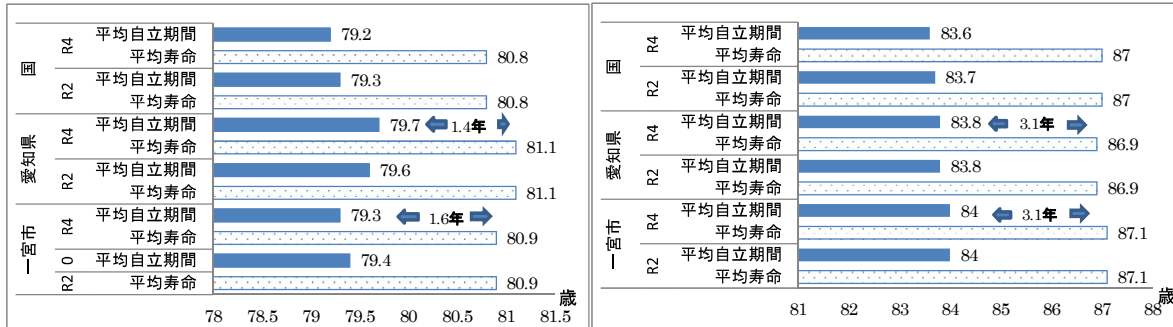


### ③人口構成(令和6年4月1日 住民基本台帳)

総人口: 377,661 人(男性 184,259人、女性 193,402人)  
 世帯数: 168,204  
 高齢化率: 27.4% (参考: R6国29.3%、R6愛知県25.8%)  
 要介護認定率: 17.5% (令和5年9月末 第9期高齢者福祉計画)

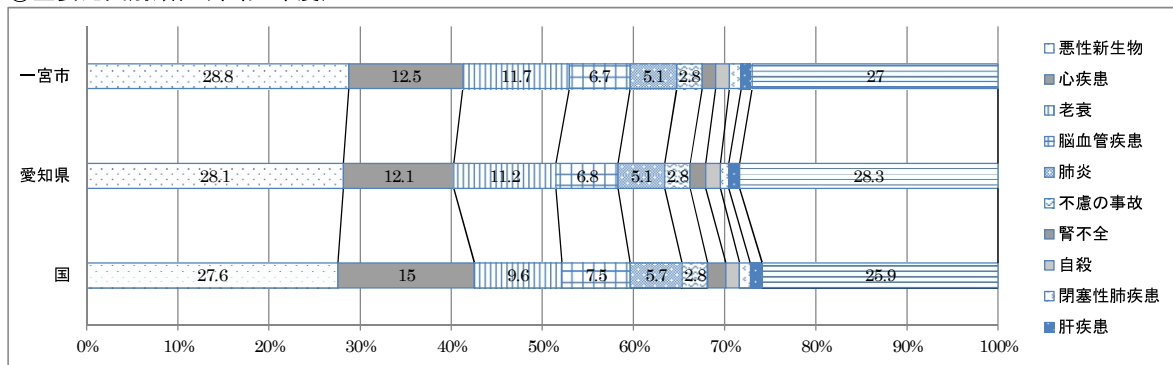
### ④平均自立期間(市町村レベルの健康寿命の指標)

平均自立期間とは、日常生活動作が自立している期間の平均年数を示す。要介護2以上を不健康状態と定義して、平均余命から不健康期間を除いたもので算出します。参考として、平均寿命を掲載しているが、単純に比較できるものではない。



平均寿命は、男女とも、令和2、4年は同じ。愛知県よりも男性は1.8年短く、女性は、0.2年長い。平均自立期間と平均寿命の差が、平均的な不健康期間となります。男性は約1.6年、女性は3.1年で男性は、愛知県よりも0.2年長く、女性は同等でした。

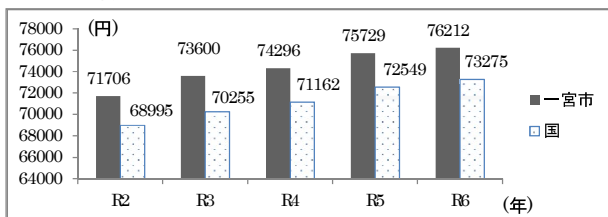
### ⑤主要死因別順位(令和2年度)



資料:健康日本21いちのみや計画

### ⑥後期高齢者医療保険制度 医療費データ

一人当たり医療費(一宮市)



死因の上位を悪性新生物、心疾患、脳血管疾患などの生活習慣病が占めている。生活習慣病は、予防対策があるもから、かかりつけ医や保健師に相談し、自分にあった対策を考えよう。早めに対策することで医療費も安くなることもあるよ。



資料:KDBシステム